

# 応援ソング 河口さん披露

## 京都橋大 学生と対話重ね制作



応援歌を披露する河口さん（山科区で）

シンガー・ソングライター  
の河口恭吾さん(47)が、  
京都橋大(山科区)の学生  
たちと今春から制作に取り  
組んでいた「応援ソング」  
が完成した。河口さんは今  
月6日のオープンキャンパ  
スで、「STORIES

2022」と名付けた4  
分40秒の楽曲を初披露し  
た。  
プラス歌の軽やかな演奏  
で始まる楽曲には、長引く  
コロナ禍で思い通りになら  
ない日々を一生懸命に生き  
てきた若者たちを支えたい

との思いを詰め込んでい  
る。  
「このままでいいの  
か こんな自分でいいの  
か 答えは ああ風の中  
そんな歌詞で始まり、象  
徴的な言葉がたくさんちり  
ばめられている。例えば…  
…」  
「描いてた未来との違い  
を埋められなくても  
キラキラした学生生活が  
待っているはずだったの  
に。友達をたくさん作ろう  
と思っていたのに。大学に  
通えない現実に落ち込んだ  
けど。」  
「片手で眺めるニュース  
は他人事じゃないから  
スマートフォンに流れて  
くる皆さんの世情に、いや

応なく巻き込まれているこ  
とに気づかされてきたけ  
ど。」  
「題名の『STORIES  
S』(物語)には二つの意  
味を含めたんです」。楽曲  
を初披露したミニライブで  
河口さんが明かした。  
一つ目は、コロナ禍の困  
難を乗り越えたそれぞれの  
道のり。もう一つは、これ  
からそれぞれに素晴らしい  
物語を紡いでほしいという  
自身のメッセージ。  
「もっと強く優しくなれ  
るなら 痛みや涙も無駄じ  
ゃないから 前と真上だけ  
見て明日へ行こう」  
「強い、強い思いがあれば  
どこまでだって僕ら行  
けるから」  
楽曲は、学生と対面やオ  
ンラインで対話を重ねて制  
作された。「彼ら、彼女ら  
の『本音』を聞き出せたの  
か、今もわからない。けれ  
ど、僕に届けてくれた物語  
を編み込んで、混沌とした

未来を生きる若者たちに贈  
りたい、僕自身のメッセー  
ジが作れたと思っていま  
す」

河口さんと歩んだ学生た  
ちは、後輩にも歌い継がれ  
ることを願っているとい  
う。